

2025年度後期における「学生による授業評価アンケート」に対するコメント

2025年度後期における「学生による授業評価アンケート」の実施に際しましては、ご協力いただきました学生の皆様並びに非常勤講師の皆様、専任教員の皆様に感謝申し上げます。

以下に、2025年度後期「学生による授業評価アンケート」の全体の結果を概観してまいります。まず回答者数と回答率ですが、全科目における延べ受講者数 9721 人に対しまして総回答者数は 5547 人となりましたので、回答率は約 57%となりました。直近の 2025 年度前期の回答率が約 60%でしたので、約 3%のダウンとなってしまいました。また、前年度前期における回答率は約 63%、後期は約 55%でしたので、この 2 年間は同様の水準で推移しているといえます。こうした現状を踏まえて、現在 FD・SD 委員会におきましては回答率 80%を目標として、回答者である学生さんの立場に立ち、より回答しやすい方法で、学修上有益なフィードバックが得られる授業評価アンケートの開発に取り組んでいるところでございます。どうかこうした趣旨と状況をご理解いただきまして、引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

さて、今期におきましても回答率から考えますと結果の解釈には慎重であるべきことを踏まえまして、以下に 2025 年度後期における「学生による授業評価アンケート」結果の特徴を概観してまいります。まず A 領域の「あなた自身について」ですが、「①この授業への出席割合」(4.31)、「②授業に積極的に参加した」(4.25)、「⑦この授業全般において満足である」(4.11) の 3 項目におきましては、5 段階評価における平均値が 4 を越えていました。また「④授業を受けて関連領域をさらに深く勉強したくなった」(3.99)、「⑤シラバスに掲げられている到達目標を達成できそう」(3.95) の 2 項目に関しましても、平均値はほぼ 4 といえると思います。こうした結果に基づきますと、「授業の出席率は非常に高く、尚且つ、授業には積極的に参加し、そして、授業で学修した領域をさらに深く学びたいと思うようになり、シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだと感じている」、このように自身の学修状況を認識していることがうかがえます。そして、学修状況をこのように認識しているため、授業全般に対する満足度も高くなっているのだと思われます。本アンケート結果からは、このように推測することが可能かと思われます。

そして、この後期から新たなる項目として「⑥シラバスに掲げられているコミュニケーション能力が身についた」が追加されました。この目的は、本学の教育の 2 本柱の 1 つである「コミュニケーション能力の育成」を評価することです。今後は「専門的な知識や技術」に加えて、「コミュニケーション能力」の観点からも授業を評価し授業改善を行ってまいります。

次に、B 領域の「授業や教員の教え方について」ですが、「⑧学生が集中しやすい授業だった」(4.21)、「⑩学生の理解度を確認しながら授業が行われていた」(4.03)、「⑪授業の学習目標を学生に伝えていた」(4.18) の 3 項目においては、5 段階評価における平均値が 4 を越えておりました。また、「⑧授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった」(3.87) におきましては、平均値が 4 に近い値となりました。こうした結果から考えますと、教員の授業運営に対しては「教員は授業時に学習目標を伝え、個々の受講生の理解度に気を配りながら、授業に集中できるように教室をコントロールしていた。質問や意見を発言しやすい環境にも一定程度配慮していた。」というように認識していたと推測されます。

A 領域、B 領域の結果をまとめますと、学生さんは自身の学修状態を「授業中において、積極的に集中して取り組み、到達目標を達成できそうな程度に学修できており、さらに学んでいきたいと思っている」と認識し、そして「教員は受講生が学習しやすい環境を整えている」、このような認識を持っていることが推測されます。そして、授業評価に対するこうした認識の傾向は、ここ数年間ほとんど変化していない状態にあります。このことから考えますと、学年や年度にかかわらず、授業に対するポジティブな認識が本学における教育活動の大きな特徴の 1 つといえるでしょう。各資格における国家試験の合格率はさらに向上しています。また、就職に関しては、開学以来高い就職率を維持し続けています。こうした本学の学修活動の特徴を代表する学修成果は、授業を中心とした学修活動の充実が大きな要因になっているものと思われます。

最後に、受講生の予習や復習といった授業外学習時間についてですが、今期におきましても十分とはいえない状態であり、本学の大きな課題として残ってしまいました。したがって、2026 年度におきましても、学修者本位の教育の実現をめざし、授業時以外でも学生が主体的に学習していくことができる学習環境を総合的につくりあげていくことが本学の最重要課題と位置づけ、この課題解決に向けて尽力してまいります。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

FD・SD 委員会委員長 須河内 貢

授業コード：

授業科目名： 全体

担当教員名：

受講者数： 9721名

回答者数： 5547名

学科	人間科学部 社会福祉学科	人間科学部 医療福祉学科 視能訓練専攻	人間科学部 子ども教育学科	人間科学部 社会創造学科	人間科学部 理学療法学科	心理学部 心理学科	保健医療学部 理学療法学科	保健医療学部 作業療法学科	保健医療学部 言語聴覚学科
	858	338	579	182	0	1689	1308	247	346

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
	2559	1881	848	259

設問No	設問文	1	2	3	4	5	*全平均
		そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	そう 思わない	

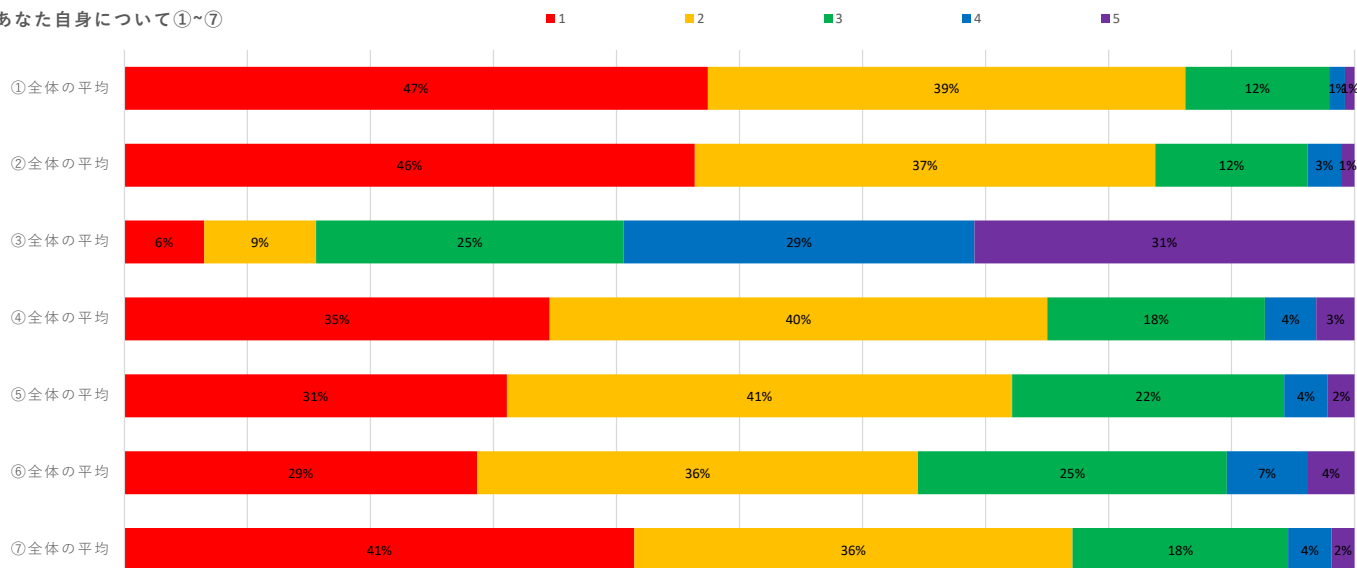
A.あなた自身について

①	この授業への出席割合は 1.毎回 2.ほとんど 3.3分の2くらい 4.半分くらい 5.半分未満	2623	2147	647	71	43	4.31
②	授業に積極的に参加した	2561	2067	684	150	61	4.25
③	この授業1回あたりで予習や復習に費やした時間は 1.2時間以上 2.1時間以上~2時間未満 3.30分以上~1時間未満 4.30分未満 5.全くしていない	358	503	1381	1575	1707	2.32
④	授業を受けて、関連領域をさらに深く勉強したくなった	1907	2232	976	230	172	3.99
⑤	シラバスで掲げられている到達目標を達成できそう	1717	2268	1221	196	120	3.95
⑥	シラバスで掲げられているコミュニケーション能力が身に付いた。	1585	1980	1387	361	213	3.79
⑦	この授業全般についてあなたは 1.満足である 2.やや満足である 3.どちらでもない 4.やや不満である 5.不満である	2287	1966	967	194	104	4.11

B.授業や教員の教え方について

⑧	学生が集中しやすい授業だった	2584	1830	847	175	85	4.21
⑨	授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった	1943	1717	1285	361	217	3.87
⑩	学生の理解度を確認しながら授業が行われていた	2219	1822	1053	275	157	4.03
⑪	授業の学習目標を学生に伝えていた	2469	1912	916	130	95	4.18

A.あなた自身について①~⑦



B.授業や教員の教え方について⑧~⑪

